

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 暮らし向き

#### 問1 昨年に比べての暮らし向き

- ・「良くなった」8.0% [「かなり良くなった」1.3%+「少し良くなった」6.7%]
- ・「悪くなった」30.9% [「かなり悪くなった」6.6%+「少し悪くなった」24.3%]  
→「悪くなった」は、男性の方が1.4ポイント多い。
- ・「変わらない」59.8%

◆平成29年11月の調査（以下「前回調査」という。）と比較…「悪くなった」が0.8ポイント増加し、「変わらない」が1.7ポイント減少し、「良くなった」が0.5ポイント増加。

#### 問1-1 暮らし向きが悪くなった理由

- ・「収入が減った（働き手が減った）」36.0%  
→男女共に最多。農林漁業（50.0%）で特に多い。
- ・「日常の生活費が増えた」31.3% →農林漁業及び今治圏域で多い。
- ・「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」13.4%  
→主婦及び今治圏域で多い。

#### 問2 暮らし向きの変化

- ・「良くなった」… [「電気器具、家具、自動車など耐久消費財」9.7%、「道路など公共施設による便利さ」8.1%、「レジャー・余暇生活」7.9%]
- ・「悪くなった」… [「貯蓄」43.8%「所得・収入」34.2%、「レジャー・余暇生活」30.4%]
- ・「変わらない」… [「道路など公共施設による便利さ」80.1%「通勤や買物の便利さ」79.2%「食生活」75.8%]

◆前回調査比…「悪くなった」が「所得・収入」を除いて増。

#### 問3 暮らし向きの程度

- ・「上」 1.0%
- ・「中」 80.3% [「中の上」7.2%+「中の中」40.8%+「中の下」32.3%]
- ・「下」 11.7%

◆前回調査比…「上」が0.6ポイント増、「中」が0.5ポイント減。

#### 問4 資産の程度

- ・「上」 0.9%
- ・「中」 65.0% [「中の上」6.3%+「中の中」29.2%+「中の下」29.5%]
- ・「下」 22.2%

◆前回調査比…「中」が2.9ポイント減、「下」が1.2ポイント増。

#### 問5 生活のゆとり感

- ・「かなりゆとりがある」11.6% →70歳代以上及び主婦で多い。
- ・「少しゆとりがある方だと思う」41.2%
- ・「あまりゆとりがない方だと思う」33.0%
- ・「全くゆとりはない」10.9%

## 問6 暮らしに対する満足度

- ・「満足している」67.0% [「十分満足している」8.5%+「十分とはいえないが、一応満足している」58.5%]
- ・「不満だ」30.0% [「まだまだ不満だ」23.2%+「きわめて不満だ」6.8%]

◆全年齢層及び全職種で「満足」が「不満」を上回っている。

## 問7 日常生活での悩みや不安

- ・「自分の健康について」58.3% →60歳代以上で多い。
- ・「老後の生活設計や家族の介護について」57.3% →50歳代(69.6%)で多い。
- ・「家族の健康について」52.6%
- ・「今後の生活費の見通しについて」49.9%

◆前回調査比…「家族の健康について」が3.5ポイント減。

## 問8 普段の生活で不足しているもの

- ・「収入」39.5% →男女共に(男性45.0%、女性36.3%)最多。
- ・「自由に使える時間」14.9% →勤め人で特に多い。
- ・「資産(土地、家屋、預貯金等)」8.3%
- ・「友人・仲間」5.1%
- ・「特にない」22.6% →主婦および60歳代以上で特に多い。

◆前回調査比…「資産(土地、家屋、預貯金等)」が3.0ポイント減少。

## 問9 自由時間と収入についての考え方

- ・「自由時間を減らしても、現在以上の収入を得たい」24.2%  
→40歳代と自営業で多い。
- ・「自由時間が減るくらいなら、収入は現在のままで良い」47.8%  
→農林漁業で多い。
- ・「わからない」28.0%

◆前回調査比…「自由時間が減るくらいなら、収入は現在のままで良い」が平成25年調査以降増加傾向にある。

## 問10 日常生活で充実感を感じる時

- ・「家族団らんの時」21.8% →30歳代(36.9%)で最多。
- ・「趣味やスポーツに熱中している時」19.8% →男性及び20歳代以下で最多。
- ・「ゆったりと休養している時」18.9%
- ・「友人や知人と会合・雑談している時」11.6%  
→女性、20歳代以下及び70歳代以上で多い。

◆前回調査比…「ゆったりと休養している時」が平成27年調査以降増加傾向にある。

## 問11 暮らしの先行き観

- ・「良くなっていく」8.1% →前回調査より20歳代以下で5.7ポイント増。
- ・「変わらない」38.0%
- ・「悪くなっていく」35.5% →60歳代以上で特に多い。
- ・「わからない」18.4%

◆前回調査比…「良くなっていく」が1.5ポイント減、「悪くなっていく」が0.8ポイント増。

## 問 12 改善したい暮らし向き（今後の暮らしで力を入れたい項目）

- ・「貯蓄」32.0% →50歳代以下で最多。
- ・「旅行・レジャー・余暇生活」19.4% →男性の方が女性より6.4ポイント多い。
- ・「食生活」14.7% →70歳代以上（30.0%）で最多。
- ・「住宅」6.8% →30歳代が多い。

◆前回調査比…「貯蓄」が4.6ポイント減。

## 問 13 今後の暮らしに対する考え方

- ・「物質的にはある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい」24.3% →女性が男性より多い。
- ・「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」19.2%  
→男性が女性より多い。
- ・「一概にはいえない」41.7% →60歳代（47.3%）で最多。

◆前回調査比…「心の豊かさやゆとり」が0.8ポイント増。

### 問 13-1 「心の豊かさやゆとり」の具体的内容

- ・「健康を大切にする」40.4%
- ・「家族・友人とのふれあいを大切にする」30.2%
- ・「趣味や習い事に生きがいを見つける」13.2%

### 問 13-2 「物質的な面」の具体的内容

- ・「耐久消費財（立派な家具、最新の自動車・電気器具など）のそろった快適な暮らし」25.1%
- ・「広くて設備の整った家に住む」19.7%
- ・「趣味・娯楽に関する良いものを購入する」19.2%

◆前回調査比…「広くて設備の整った家に住む」が5.8ポイント減。

## 2 広報・広聴

### 問 14 県の広報活動の周知度（県の広報活動のうち知っているもの）

- ・「広報紙『愛顔のえひめ』」45.0%  
→60歳代以上で最多。今治圏域を除く全圏域で最多。
- ・「テレビ広報番組」39.4% →50歳代以下及び今治圏域で最多。
- ・「県ホームページ」14.9%
- ・「ラジオ広報番組」5.0% →前回調査より5.7ポイント減。

◆前回調査比…「テレビ広報番組」が6.0ポイント減。

### 問 15 県のテレビ広報番組の視聴経験

- ・「見たことがある」37.7% →40歳代及び松山圏域で最多。
- ・「見たことがない」62.3% →70歳代以上及び宇摩圏域で最多。

◆前回調査比…「見たことがある」が3.9ポイント減。「見たことがない」が3.9ポイント増。

### 問 15-1 テレビ広報番組を見ての感想

- ・「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」27.8%  
→前回調査より2.5ポイント増。
- ・「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」48.0%  
→前回調査より1.2ポイント増。
- ・「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」10.3%  
→前回調査より2.9ポイント減。
- ・「番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい」7.8%

### 問 15-2 「見たことがない」理由

- ・「放送されていることを知らなかった」67.2%  
→全年齢層で最多。70歳代以上は特に多い。
- ・「仕事の都合などで、現在の放送時間では見ることができない」13.3%  
→前回調査より40歳代で7.3ポイント増。
- ・「広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない」8.5%

◆前回調査比…「放送されていることを知らなかった」が5.7ポイント増。

### 問 16 県のラジオ広報番組の聴取経験

- ・「FM みきゃんラジオ (FM愛媛)」3.7% →前回調査より4.1ポイント減。
- ・「週刊 愛顔のえひめ (南海放送ラジオ)」2.6% →前回調査より3.8ポイント減。
- ・「どれも聞いたことがない」94.3%  
→全年齢層で特に多い。全圏域で特に多い。

### 問 16-1 ラジオ広報番組を聞いての感想

- ・「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」35.6%  
→20歳代以下(60.0%)で最多。前回調査より8.1ポイント増。
- ・「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」47.5%  
→20歳代以下及び50歳代を除く全ての年齢層で最多。前回調査より12.0ポイント増。
- ・「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」15.3%
- ・「番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい」0.0%

### 問 16-2 「どれも聞いたことがない」理由

- ・「放送されていることを知らなかった」55.6%  
→全年齢層で最多で20歳代以下で特に多い。前回調査より6.2ポイント増。
- ・「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」14.5%  
→前回調査より2.3ポイント減。
- ・「広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない」3.0%

### 問 17 広報紙「愛顔のえひめ」の周知度

- ・「知っていた」55.7%  
→女性の方が男性より14.2ポイント多い。40歳代以上で最多。
- ・「知らなかった」44.3%

◆前回調査比…「知っていた」が2.8ポイント増。

### 問 17-1 広報紙「愛顔のえひめ」をどの程度読んでいるか

- ・「全体をよく読んでいる」17.9%
- ・「興味のあるところを選んで読んでいる」44.5% →全年齢層で最多。
- ・「見出し程度しか読まない」21.5%
- ・「ほとんど読むことはない」11.3%

◆前回調査比…「全体をよく読んでいる」が5.6ポイント増。

### 問 17-2 広報紙「愛顔のえひめ」の感想

- ・「紙面は見やすく、情報量も適当である」55.2% →全年齢層で最多。
- ・「紙面は見づらいが、情報量は適当である」13.4%
- ・「紙面は見やすいが、情報量が少ない」13.4%
- ・「紙面は見づらく、情報量も少ない」2.8%

◆前回調査比…「紙面は見やすいが、情報量が少ない」が2.9ポイント減。

### 問 18 広報紙「愛顔のえひめ」に取り上げるテーマの希望

- ・「県の行事・イベント・施設の紹介」57.9%  
→男女共、60歳代以下、勤め人で最多。
- ・「介護や福祉、医療に関すること」50.7% →60歳代以上で最多。
- ・「消費生活や暮らしに関すること」43.1%
- ・「災害対策に関すること」31.8%
- ・「県の施策の紹介」17.3%

### 問 19 県政情報の情報源（情報を得る方法）

- ・「テレビ」61.3% →全年齢層、全圏域で最多。
- ・「新聞」40.8% →30歳代以下で特に少ない。
- ・「市町が発行している広報紙（誌）」28.0% →60歳代以上で特に多い。
- ・「県の広報紙」27.1%

◆前回調査比…「入手できていない」が4.6ポイント増。

### 問 20 今後の広報活動の取組み

- ・「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実（放送回数や放送時間の増）」57.6%  
→20歳代を除く全年齢層、全職種、全圏域で最多。
- ・「県の広報紙の充実（発行回数やページ数の増）」34.7%  
→20歳代以下及び自営業で少ない。
- ・「刊行物、ポスター、パンフレットの充実（種類や部数の増）」23.6%
- ・「記者発表などマスコミの活用の充実」20.9%

### 問 21 県政について知りたい情報

- ・「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」31.1%  
→男性（37.0%）で最多。50歳代以上で最多。
- ・「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」29.6%  
→女性（33.3%）で最多。30歳代で最多。前回調査より3.6ポイント減。
- ・「県の行事や催しものなどのお知らせ」25.4%
- ・「県の施設の紹介や利用方法」22.8%

## 問 22 県民の声を県政に反映させる手段

- ・「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」30.5%  
→女性(33.8%)、50歳代以上で最多。
- ・「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」23.6%  
→男性(27.0%)40歳代以下で最多。
- ・「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」12.4%  
→男性(18.1%)の方が女性(9.0%)より9.1ポイント多い。
- ・「県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する」8.8%

◆前回調査比…「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」が1.7ポイント減。

## 問 23 県民の声(県への意見、要望等)の伝達方法

- ・「県に電話をかける」20.0%  
→男女共、全年齢層で多い。農林漁業で特に少ない。
- ・「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」12.6% →農林漁業で特に多い。
- ・「市町を通じる」8.8% →八幡浜・大洲圏域で多い。
- ・「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」8.3% →宇摩圏域で特に多い。
- ・「わからない」30.2%

## 問 24 県政出前講座の周知度

- ・「知っていた」8.9% →70歳代以上で多い。
- ・「知らなかった」91.1%

## 問 25 県政出前講座を利用したいかどうか

- ・「利用したい」13.5%
- ・「利用したいとは思わない」26.1% →20歳代以下で多い。
- ・「わからない」60.4%

◆前回調査比…「利用したい」が3.2ポイント減。

### 問 25-1 利用したいとは思わない理由

- ・「利用する時間がないから」25.6% →30歳代、40歳代及び60歳代で最多。
- ・「県政に興味がないから」17.8% →20歳代以下(38.7%)で最多。
- ・「講座は難しそうなイメージがあるから」14.6%
- ・「設定されている講座テーマを知らないから」13.9%

## 3 愛媛県のイメージ

### 問 26 現在の愛媛県のイメージ

- ・「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」81.3%  
→男女共、全年齢層、全圏域、全職種で最多。
- ・「物価が安い」25.5% →松山圏域及び自営業で多い。
- ・「不便である」25.3% →宇和島圏域で多い。
- ・「文化、スポーツ活動が盛んである」23.2%

◆宇摩圏域では「経済や産業が盛んである」(30.0%)が多い。

## 問 27 将来なって欲しい愛媛県のイメージ

- ・「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」 54.3%  
→50歳代を除く全年齢層、宇摩圏域を除く全圏域、全職種で最多。
- ・「介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる」 46.4%  
→女性 (50.6%) が男性 (39.5%) より多い。宇摩圏域 (65.0%) で特に多い。
- ・「高齢者や障がい者にもやさしい」 28.5%
- ・「物価が安い」 23.3%

## 4 県政への要望

### 問 28 産業面で特に力を入れて欲しい施策

- ・「雇用対策」 25.4%  
→女性及び60歳代以下で最多。
- ・「道路整備」 23.6% →男性、70歳代以上、宇摩圏域で最多。
- ・「農林業の振興」 14.1% →40歳代以下で少ない。
- ・「観光の振興」 13.9%

◆前回調査比…「道路整備」は3.7ポイント増。

#### 生活環境面で特に力を入れて欲しい施策

- ・「介護・福祉サービスの充実」 34.1%  
→男女共、50歳代以上、全圏域で最多
- ・「医療、保健衛生機能の拡充」 17.8% →八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域で多い。
- ・「子育て支援対策」 13.0% →30歳代以下で最多。
- ・「物価・消費者保護対策」 12.1%

◆前回調査比…「介護・福祉サービスの充実」は2.8ポイント減。

#### 教育面で特に力を入れて欲しい施策

- ・「学校教育の充実」 34.2%  
→男女共、60歳代以下、全圏域で最多。
- ・「社会教育の充実」 19.5%
- ・「青少年の健全育成」 15.1% →70歳代以上で最多。
- ・「芸術、文化の振興」 13.6%

◆前回調査比…「学校教育の充実」は3.3ポイント増。

## 5 特定課題

### 【統一コンセプトの認知度】

#### 問 29 統一コンセプトの認知度

- ・「まじめみきゃん/まじめ課長」 35.6%  
→新居浜・西条圏域、松山圏域、八幡浜・大洲圏域で多い。
- ・「まじめ課」 10.7%
- ・「まじめえひめスタンプロゴマーク」 8.9% →50歳代で多い。
- ・「この中で知っているものはない」 58.2%

## 問 29-1 統一コンセプトの情報入手の方法

- ・「県の広報紙・広報番組・ラジオなど」55.9%  
→全年齢層で最多。50歳代以上で特に多い。
- ・「ニュース番組や新聞記事、ラジオ」52.0% →50歳以上で多い。
- ・「ポスターやチラシ」29.5%

## 【自転車新文化の推進】

### 問 30 自転車新文化の認知度

- ・「知っている」17.7%
- ・「内容は知らないが、聞いたことがある」34.6%
- ・「知らない」47.6%

### 問 30-1 自転車新文化の普及・拡大に向けた県の取組み

- ・「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」73.2%  
→全年齢層で6割を超え最多。全圏域で7割を超え最多。
- ・「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」64.6%  
→全年齢層で5割を超えている。八幡浜・大洲圏域を除く全圏域で6割を超えている。
- ・「女性、高齢者、子ども、障がい者などの幅広い層への自転車利用の普及・拡大」33.3% →70歳代以上で特に多い。
- ・「サイクリストの受入環境・おもてなし態勢の整備」27.5%

## 【再犯防止推進に向けた県の取り組み】

### 問 31 再犯防止に関する広報・啓発活動の認知度

- ・「両方とも聞いたことがある」15.6%  
→70歳代以上(22.1%)及び宇和島圏域(25.3%)で特に多い。
- ・「「社会を明るくする運動」のみ聞いたことがある」11.1%
- ・「「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがある」11.0%
- ・「両方とも聞いたことがない」47.9% →全年齢層及び全圏域で最多。

### 問 31-1 更生保護に携わる団体の認知度

- ・「更生保護施設」43.1% →40歳代以上及び今治圏域を除く全圏域で最多。
- ・「更生保護協会」11.8% →70歳代以上及び八幡浜・大洲圏域で多い。
- ・「協力雇用主」10.8%
- ・「聞いたことのあるものはない」33.8% →30歳代以下で最多。

### 問 31-2 犯罪をした人の立ち直りへの協力

- ・「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」17.6%
- ・「更生保護施設(出所後、直ちに自立更生することが困難な人達に対して、一定期間、宿泊場所や食事を提供する民間の施設)にお金や品物などを寄付する」11.1%
- ・「広報・啓発活動に参加する」9.9% →宇摩圏域(16.4%)で特に多い。
- ・「わからない」46.7% →全年齢層及び全圏域で最多。

### 問 31-3 再犯防止に必要な県の取組み

- ・「国の刑事司法関係機関（刑務所、少年院、保護観察所等）と連携して、一人ひとりの問題性に応じた、きめ細かな支援を行う」49.6% →宇摩圏域を除き最多。
- ・「仕事と住居の確保を支援して生活基盤の安定を促進する」49.6% →宇摩圏域で最多。
- ・「被害者の置かれた状況や心情を理解してもらうための支援をする」33.9%  
→30歳代（45.8%）で特に多い。

## 【防災に関する意識】

### 問 32 地震に備えた家具類の固定

- ・「全部または大部分を固定している」3.0%
- ・「一部のみ固定している」43.1% →今治圏域で最多。
- ・「固定していない」53.9%  
→全年齢層及び今治圏域を除く全圏域で5割を超え最多。

#### 問 32-1 地震に備えた家具類の固定をしていない理由

- ・「手間がかかる」37.5% →全年齢層及び全圏域で最多。
- ・「費用がかかる」28.5% →40歳代（36.3%）で特に多い。
- ・「固定をしても被害は出ると思う」20.2% →宇摩圏域（30.3%）で特に多い。
- ・「借家・賃貸マンションのためできない」17.4%  
→20歳代以下（33.3%）で特に多い。

#### 問 32-2 災害発生時の早期避難

- ・「早期に避難する」42.8%  
→全年齢層及び全圏域で最多。八幡浜・大洲圏域（51.9%）で特に多い。
- ・「早期に避難したいが、すぐには避難できない」32.9%
- ・「すぐには避難しない」14.8%
- ・「わからない」9.5%

## 【県民の備蓄状況に関する調査】

### 問 33 災害に対する備え

- ・「食料、水、生活必需品等の物資の備蓄」51.0%  
→全年齢層及び全圏域で最多。
- ・「ハザードマップの確認」28.3%  
→50歳代で多い。宇和島圏域（15.2%）で特に少ない。
- ・「避難所や避難経路を話し合っ決めてしている」23.2% →40歳代以下で多い。
- ・「防災訓練への参加」20.3%  
→60歳代以上、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域で多い。
- ・「家具の転倒防止」20.2%
- ・「特に対策をしていない」24.2%

### 問 33-1 食料、水、生活必需品等備蓄しているもの

- ・「飲料水」 89.3% →全年齢層で最多。今治圏域 (94.5%) で特に多い。
- ・「食料」 76.3%
- ・「常備薬」 39.2%  
→70歳代以上 (47.3%) 及び宇和島圏域 (55.8%) で特に多い。

### 問 33-2 食料の備蓄量

- ・「1日分」 17.0%
- ・「2日分」 22.7%
- ・「3日分」 41.2% →20歳代以下を除く全年齢層及び全圏域で最多。
- ・「4日分」 3.7%
- ・「5日分」 6.2%
- ・「6日分」 1.5%
- ・「7日分以上」 7.7%

### 問 33-3 水の備蓄量

- ・「1日分」 16.7% →20歳代以下で最多。
- ・「2日分」 24.7% →30歳代で最多。
- ・「3日分」 33.0% →40歳代以上及び宇摩圏域を除く全圏域で最多。
- ・「4日分」 6.0%
- ・「5日分」 4.9%
- ・「6日分」 3.1%
- ・「7日分以上」 11.5%

### 問 33-4 災害に対する備蓄をしない理由

- ・「買い置きしている物で十分だと考えている」 34.5%  
→50歳代以上及び宇摩圏域を除く全圏域で最多。
- ・「何を準備していいかわからない」 29.2% →30歳代以下及び宇摩圏域で最多。
- ・「備蓄物資を置く場所がない」 22.9% →宇摩圏域 (35.5%) で特に多い。
- ・「備蓄にお金がかかる」 22.2%  
→30歳代及び40歳代が多い。宇摩圏域 (38.7%) で特に多い。

## 【プラスチックごみの削減】

### 問 34 プラスチックごみ削減のための取組み

- ・「マイバッグ、マイボトルの使用」 72.9%  
→女性 (80.4%) の方が男性 (61.4%) より多い。全年齢層で7割を超えている。新居浜・西条圏域、今治圏域、松山圏域で多い。
- ・「詰め替え用商品の購入」 64.2%  
→女性 (69.5%) の方が男性 (56.0%) より多い。30歳代 (81.8%) で最多。
- ・「食品トレイなどリサイクル品の回収への協力」 63.9%  
→女性 (67.7%) の方が男性 (58.1%) より多い。50歳代以上で多い。

### 問 34-1 レジ袋有料化義務化への対応

- ・「既にマイバッグを使用している」 58.1%  
→女性 (67.5%) の方が男性 (42.6%) より多い。全年齢層及び宇和島圏域を除く全圏域で最多。新居浜・西条圏域 (72.0%) で特に多い。
- ・「有料化に合わせ、マイバッグを購入する」 23.9%
- ・「お金を支払い、レジ袋を購入する」 7.9%
- ・「有料化になってからでないとわからない」 10.1%

## 【障がい福祉課で推進する施策の認知度】

### 問 35 ヘルプマークの認知度

- ・「ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている」 8.2%
- ・「ヘルプマークについてのみ知っている」 25.6%  
→30歳代 (31.8%) で特に多い。宇和島圏域 (32.6%) で特に多い。
- ・「知らない」 66.2% →男女共、全年齢層、全圏域で最多。

### 問 35-1 パーキングパーミット制度の認知度

- ・「制度について知っていて、県・市町の窓口で利用証を配布していることも知っている」 15.4%
- ・「制度についてのみ知っている」 23.2% →70歳代以上 (30.0%) で特に多い。
- ・「知らない」 61.3% →男女共、全年齢層、全圏域で最多。